

## 崖っぶちのタカハヤ

以前、野洲川の上流で泳いだ時、群がってきた小魚に体中の毛をついばまれて大変痛い思いをしたことがあります。なんと犯人は悪食で貪欲なタカハヤだったのです。

タカハヤは甲賀市内の鈴鹿山系などではイワナと共に最も標高の高い所にまで棲む魚であり、一見土砂で埋め尽くされた様な溪谷に所々地上に現れる小さな流れにも住んでいることがあります。イワナやアマゴが生きていくためには安定した水量、水質が保障され、河畔林の植生を含め、典型的な溪流を構成する条件がフルセットになった環境が必要なのに対して、タカハヤは冷たくきれいな水が少しあれば過酷な環境の下でも何とか暮らしていただけるのです。溪流魚の餌は水棲昆虫の様な底生生物やたまたま陸地から落ちてくる昆虫等の小動物しかありません。タカハヤの場合は雑食性が強くそれら以外にも付着藻類や底生微生物、植物性のものでも何でもたべるようです。私のムダ毛も貴重なたんぱく源となったことでしょう。

そんなたくましい彼らにも危機が迫りつつあります。タカハヤが棲む源流部を歩くと随所に古い炭焼き窯の跡がみられますが、かつては薪炭の産地として源流部の自然環境を支えてきた鈴鹿山系の二次林が、燃料革命後、半世紀を経過して人の手が入らなくなった為に荒廃し始めているのです。最近では、人が滅多に立ち入らない様な奥地でも大規模な崩落箇所が増えつつあります。二次林に覆われた彼らの楽園の様な源流地帯も数年後に訪れてみると跡形もなく消滅していることもあります。釣りの対象にもならない為、人から目を向けられることもなく、冬には全てが凍り付く様な過酷な環境下でひっそりと健気に生き続ける彼らにエールを贈ります。

中谷 成一

(酪農家、甲賀市在住)



涸れ沢の続く田村川上流域、このさらに上流に魚がすんでいると思う人がいるでしょうか？



砂防堰堤の上に来た2m四方ほどの伏流水の水溜り。タカハヤはこれだけの環境があれば子孫も残すことができます。



水溜りの底に潜む成魚の群れ、若魚と幼魚の群れも共棲し、孵化した稚魚はある程度大きくなるまで岸よりの小石の隙間で過ごします